

青山高校卒業式祝辞

2025年3月14日

ご紹介いただきました、青山高校同窓会 外苑会会長の長久保でございます。
同窓会を代表いたしまして、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さん、ご卒業まことにめでとうございます。
そして、ご臨席の保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。
また、これまで親身にご指導いただきました、永森校長ならびに教職員の皆様
には、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、いま皆さんは青高を卒業し、大学進学を足がかりにさらに大きな夢の実
現へ、希望に胸を膨らませていることと思います。まさに青春のど真ん中にある、
とって差し支えないでしょう。

私事ではありますが、先月、この国の決め事で「高齢者」の仲間入りをしまし
た。18歳の皆さんと65歳の私の年齢差は縮まることも広がることもありませ
んが、この年になっても興味ある分野を学び続けたいという気持ちを持ってい
ます。その思いを持ち続けるきっかけとなった詩の一節をご紹介しますと思
います。

20世紀の初頭、サミュエル・ウルマンというアメリカの詩人が70歳の時に
「青春」について書いた「Youth」という作品の冒頭の次のフレーズがそれです。

「Youth is not a time of life; it is a state of mind.」

・青春とは人生の一時期のことではなく心のあり方のことだ。

さらにその詩の中には、

「人間は年齢（とし）を重ねたとき、老いるのではない。理想をなくしたとき、
老いるのである」

「希望ある限り人間は若く、失望とともに老いるのである」
という一節もあります。

どれも、なかなか、奥深い洞察だと思いませんか。

皆さんは、これから、さまざまな喜びや悲しみ、経験を重ねて成長を遂げる

わけですが、常に目標をもち、好奇心を持っていつまでも「青春」でありつづけるような、わくわくする人生を歩んでいくことを期待いたします。

人生は楽しいこと、辛いことがごちゃ混ぜになったスリリングな道なき道の連続です。行く先の見える道ばかりではありません。右に行くのか、左にまがるのか。あるいは立ち止まるのか。その時々で自らが決断をしていく、その繰り返しこそが生きるということです。

決断の決め手となるのは、自分の経験や学びの積み重ねで増やしてきた豊かな「引き出し」、解決策です。コミュニケーションの手段が劇的に変化を続ける今の時代、人間がするより効率のよい仕事は、生成 AI を活用したツールにとって代わるのは人類の進化のある種、必然です。AI に任せられない、人にしかできないことこそ、「決断」という行為だと私は考えたい。そのための学びを続けることの大切さ、この年になって改めて痛感しています。

学びの対象は学問だけではなくありません。人から学び、仲間と学ぶこと、社会から学ぶことも大切です。青高で出会った仲間たちとの交流、いつまでも続けてほしいと切に願っています。

私ども同窓会では、卒業生相互の親睦を図る事業、在校生の教育活動支援事業の2つを事業の柱として活動を展開しております。

住所を把握できている同窓生は15,000人ほどに上ります。毎年、総会・懇親会を開き、大勢の皆さんに親睦を深めていただいているほか、卒業生を講師にした交流会の開催や、同期会の開催支援、会報誌の発行など、様々な活動を行っております。

在校生支援のひとつとして、2017年にスタートさせた奨学金給付制度は、毎年6名を基本に奨学金を給付しています。

また、2019年には同窓会の活動を持続可能で透明性の高いものにするべく、法人化を実現、会の名称についても「外苑会」と改めました。

皆さんも、これからは、その一員です。3年前からは、若手の同窓生に親しみを持っていただくことを目的に、卒業したばかりの同窓生に活動に加わってもらい、公式インスタグラムの運営をはじめ、さまざまな企画を出していただき、運営を担っていただいています。一緒に青高と同窓生を盛り上げていきましょう。この年になっても、青高でよかったと思うことは「絆」です。同級生はもちろん、先輩方や後輩たちと今も続く交流です。シンプルに「青高」という共通項だけで続く強い絆は、人生の宝物です。どうか、青高で出会った仲間とのコミュニケーションを大切にしてください。

終わりに、卒業生の皆様のご活躍、ご臨席の皆様のご健勝をまた、青高のますますの発展をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はまことにおめでとうございます。